

送辞

冬の寒さが和らぎ、冬を耐えしのんだ木々のつぼみがひとつ、またひとつとふくらみ始める季節となりました。本日晴れてご卒業される八期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

先輩方が高志中学校に入学されてから、三年の月日が経ちました。振り返れば、高志中学校での様々な思い出がよみがえってくるのではないのでしょうか。楽しかったこと、つらかったこと。仲間と喜び合ったり、悩みあったり。たくさんの出来事があり、多くの経験をされたことと思います。

先輩方と過ごした二年間はあっという間に過ぎてしまいましたが、濃くて深いものであり、かけがえのないものでした。そして先輩方は私たちにとって、とても頼れる存在でした。部活動や学校行事などで先輩方に助けていただいたり教えていただいたりしたことは、数え切れないほどです。困っている人がいたら声をかけ、自分の決めたことに真っ直ぐに進む。そんな先輩方の姿は、頼もしいだけでなく、私たちに希望や勇気をくださいました。

令和5年度のフェニックス祭、先輩方は中学校ミュージカルでキャストをされていました。大きなステージの上で堂々としている姿、パフォーマンスに一生懸命になりながらも笑顔で楽しそうな表情。先輩方の中学校ミュージカルへのあふれんばかりの熱情が、見ている私たちにまで届きました。あのときの先輩方の姿は忘れられません。入学して数か月の私が、何事にも全力で取り組む高志中生の力強さを感じた瞬間でした。

また、先輩方は普段から私たちに優しく、頼もしい背中を見せてくださいました。特に部活動では、数多くのことを教えていただきました。一年生の時は、部活動の基本からじっくりと。二年生では、より上達するためのコツや、部活動を引っ張っていく学年としての心構えを。そして、この二年間を通して、部活動をすることの楽しさを教えてくださったのも先輩方です。先輩方と味わった達成感や充実感は忘れることのできない永遠の思い出です。

さらに、先輩方は後輩の私たちと、様々なかたちでコミュニケーションをとってくださいました。高志中学校全体で交流する交流祭では、縦割りの班で集まったものの、なかなか会話が始められない一・二年生を盛り上げてくださったのが、先輩方でした。班のメンバー一人ひとりに声をかけ、気軽に自分の考えを言い合える雰囲気を作ってくださいました。一人ひとりのことを考え、その時間がより良いものになるよう行動する、そんな先輩方の姿に私は憧れを抱きました。そして、高志中学校の最高学年としての在り方を学びました。

先輩方は日頃から私たちに明るく、優しく接してくださいました。その朗らかな雰囲気が、個性を否定するのではなく、認め合うことのできる高志中学校をつくり、私たちを導いてくださいました。私たちも、先輩方のように学校を引っ張っていくリーダーになれるよう頑張っていきます。まだまだ未熟ですが、温かく見守ってください。

最後になりますが、先輩方は仲間の個性だけでなく後輩の私たちの個性まで受け入れてくださいました。これから先、人の個性が十人十色であるように、先輩方の進む道も千差万別だと思います。ですが、認め合う力を持つ先輩方なら、お互いの思いを理解しあって、それぞれの道を突き進んで行けると信じています。先輩方の行く道が明るく希望にあふれたものになりますよう心からお祈りし、送る言葉とさせていただきます。